

シンポジウム

「看護実践と研究をつなぐ」

なごや看護学会第1回学術集会長

明 石 恵 子 (名古屋市立大学看護学部)

2018年11月17日、なごや看護学会第1回学術集会を名古屋市立大学さくら講堂で開催させていただいた。本学会の構想から約3年、私は構想段階から関わり、特にこの2年間は、学会設立準備ワーキング、発起人会、理事会・評議員会と議論の場が変化するなかで、学会設立への熱意をもった方々とさまざまなことを検討し、新しい組織を創ることの難しさと楽しさを経験させていただいた。そして、記念すべきなごや看護学会第1回学術集会長を拝命し、とても光栄に思っている。

なごや看護学会は、看護実践者と研究者をつなぐことを趣旨としている。そのスタートとしての設立記念シンポジウムのテーマは「看護実践と研究をつなぐ」であった。人々の健康と生活を支える看護を探求し、看護の質を向上させるために研究は不可欠である。しかし、健康障害を持つ人々を対象とする看護において、「研究」という視点で介入し、実践に適用できるレベルの成果を実証することは容易ではない。そこで、シンポジストの皆様には、それぞれの立場での研究活動の苦労もふまえて、以下の内容を発表していただいた。

1. 保健師の立場から行政と研究者との協働のあり方 (名古屋市中保健センター 日高橘子様)
2. 慢性疾患看護専門看護師の立場から考える臨床研究のあり方 (名古屋大学医学部附属病院看護部 高井奈美様)
3. 大学教員の立場で実施する臨床現場での研究 (名古屋市立大学看護学部 益田美津美様)
4. 臨床の看護職者と研究者との共同研究の取り組み方 (高知県立大学看護学部 田井雅子様)

シンポジストの発表後は参加者全員で意見交換を行った。具体的には、臨床現場での研究テーマの見つけ方、研究を依頼・実施する上での細やかな配慮の必要性、行政や臨床からの大学教員への要望などであり、研究を実施する者と研究の依頼を受ける者、それぞれの率直な疑問や意見を聴くことができた。短時間であったが、なごや看護学会のスタートとして、「看護実践と研究をつなぐ」ためのいくつかの示唆が得られた。そして、このような議論を通して、地域密着型という特性をもつ本学会の面白さと発展の可能性を感じた。

